

来年の議案にそのまま使える背景・目的

背景 継続的な対内広報体制の構築

現在、メンバー一人ひとりが積極的に活動しているものの、その挑戦や想いが組織内で十分に共有されておらず、組織への共感やブランド価値の醸成につながっていない状況があります。その原因は、継続的かつ効果的な対内広報体制が不足していることにあります。そのため、メンバーの挑戦や想いが組織全体へ継続的に伝わり、組織への共感や誇りを育む状態にする必要があります。

目的 誰でもできる発信への転換

運動の背景や目的、想いを分かりやすく整理・言語化し、継続的に対内広報できる体制を構築することで、例会・事業内容の共有不足や発信の属人化を減らすことを目的とします。

運動手法

① LOMで使える会報誌運用

会報誌を通じて、例会・事業の内容だけでなく、活動の背景・価値・メンバーの想いを組織内へ共有する。メンバーの挑戦や躍動する姿を可視化することで、活動への理解と共感を広げ、LOM内で運動の価値を伝えられる会報誌運用を構築する。

② 生成AIを活用した広報

例会・事業後に写真や内容、参加者の声を整理し、生成AIを活用してSNS投稿や報告記事へ落とし込むことで、誰でも短時間で発信できる仕組みを構築する。また、「写真を撮る人」「情報を整理する人」「確認する人」など役割を分担することで、特定個人に依存しない継続可能な広報体制を整備する。

どんなLOMに向いてる？

活動はしているが、価値や想いが伝わりきっていないLOM

日々活動していても、例会や事業の内容・想いが参加者以外へ十分共有されず、組織内に価値が浸透していないLOMに適しています。また、写真整理や文章作成の負担から広報が遅れたり、担当者依存で継続性に課題を抱えるLOMにも有効です。

この運動をするとあなたのLOMはどう変わる？

想いが伝わり、メンバーが運動の価値を自ら語れる組織になる

活動内容や想いを整理し、分かりやすく発信できる状態を構築することで、運動が組織内で共有され、共感と理解が広がります。その結果、継続的な広報体制が生まれ、メンバー一人ひとりが運動の価値を語るLOMへとつながります。

Point 運動構築におけるアドバイス

- ・発信は「後でやるもの」ではなく「その場でやるもの」とする
- ・生成AIを活用することで、誰でも短時間で文章作成が可能になる
- ・完璧を目指すのではなく、まず発信を継続することを優先する
- ・小さな発信の積み重ねが、組織全体の理解と共感を高める
- ・発信の型を決めることで、誰でも迷わず取り組めるようにする
- ・写真と一言でもよいので、まずは発信する習慣をつくる
- ・一人で抱え込まず、役割分担して発信を行う
- ・発信内容は難しく考えず、伝えることを優先する
- ・その日のうちに整理することで、鮮度の高い発信につながる
- ・まずは実践し、改善を繰り返すことを意識する

